



《将来に向けた取組方針》

鹿島は、持続可能な社会を「低炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの視点でとらえ、2050年までに達成すべき将来像を「Zero Carbon」「Zero Waste」「Zero Impact」と表現した「鹿島環境ビジョン：トリプルZero2050」を2013年に策定。

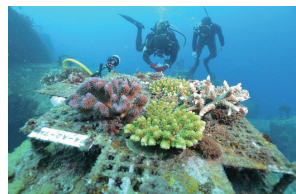
自然共生では、「自然・生物に対する負荷が少なく、そこからの生態系サービスを持続的に享受できる社会」をゴールとし、建設業における自然・生物への影響を抑制し、新たな生物多様性の創出・利用を促進することで、建設事業全体でのゼロインパクトを目指します。

《**具体的取組み事例**》 鹿島は業界に先がけて2005年に制定した「鹿島生物多様性行動指針」で建設事業を通じた生物多様性の保全と再生を掲げ、研究開発や事業の提案によりその実現を目指しています。

生物多様性に配慮した取組み事例



公共関与型産業廃棄物管理型最終処分場「エコアかもと」のビオトープとホテルの放流



コーラルネットによるサンゴ群集の再生技術



戸塚区総合庁舎8階屋上に整備した農園と水田

次世代をはぐむ環境教育



地域と連携したアマモ場の保全活動



屋上水田で田植え体験



ホテル幼虫飼育に餌として供給するカワニナの増殖方法を小学生に指導

また、建設現場でも騒音や振動など周辺の影響を最小限にするよう努めるほか、希少種保存などの生物多様性保全活動に計画段階から取り組んでいます。